

高効率な石油精製技術に係る研究開発支援事業費補助金

平成30年度予算額 **5.0億円 (5.7億円)**

事業の内容

事業目的・概要

- 省エネの進展等による国内石油需要の減少、アジア新興国における大型・輸出型製油所の台頭による国際競争の激化など、我が国石油精製業を取り巻く事業環境は厳しくなっています。
- こうした中、将来にわたり石油の安定供給を確保していくためには、コストの安い原油等から高付加価値の製品を生産すること（石油のノーブル・ユース）や精製設備の稼働を長期間安定させること（稼働信頼性の向上）など石油製品を効率的に生産する能力を高めることで、原油の有効利用や調達原油の多角化（中東依存度の低減）を図っていくことが重要です。
- このため、本事業では、国内石油精製業の技術基盤の底上げを図る観点から、付加価値の高い化学製品を効率的に生産する技術や、低廉な重質原油を用いて石油製品を効率的かつ安定的に生産する技術のうち、大きな効果が見込めるものの技術的な難易度が高い技術の開発（石油製品の新たな製造プロセスの確立など）を支援します。

成果目標

- 平成28年度から平成32年度までの事業であり、平成32年度までに、ブタンから高付加価値品であるブタジエンを効率的に製造する上で必要となる触媒の耐久期間を現状の数日から6箇月程度にすることや、石油精製の省エネ化につながる膜分離プロセスに用いる膜の耐久期間を数日から24箇月程度にすることなどを目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

- 反応条件の最適化や触媒改良により、分解装置で残油等を処理した際の高付加価値品への転化割合を向上
- 高稼働率による生産性アップ

石油のノーブル・ユース
付加価値の高い石油製品や石油化学製品を効率的に生産

